

花の道

明治中学校 二年 及川 明李咲

「一緒にやってもいいですか？」

私は部活動からの帰り道、道沿いで花植えをしている数人のおばあさんに声を掛けました。おばあさんはニコツと笑って、

「いいよ。やってごらん。」

と、言ってくれました。土を耕し、肥料をまき、花の苗を植えました。花植えをしながら、おばあさんとたくさん話をすることができました。

「若いのに花が好きなの？ 今時めずらしいね。お花はあつた方がいい。だって、地域のみんなが明るくなるでしょ。」

と、おばあさんは話していました。そして続けて、

「この花はね、マリーゴールドといって、丈夫なんだよ。あとね、この花はサルビア。真っ赤で素敵でしょ。花言葉は家族の愛。」

と、花や植物についてたくさん教えてくれました。

「あなたのおかげできれいになったよ。助かった。ありがとう。」

と、おばあさんはまた笑顔で言ってくれました。通学する場所、そして地域の人がたくさん目にする場所。とても明るくなり嬉しくなりました。

春、そして夏になると自然の匂いがしてきます。土の匂い、木の匂い、そして花の匂いです。私が住んでいるところは自然を満喫できる素晴らしい地域です。近くには田んぼがあり、小川が流れていて、とんぼやホタル、ザリガニ、小さな魚までいます。私たちを取り囲むこの地域の自然は、この地に人が住み始めてから脈々と受け継がれてきたそのままだろうと思わせてくれる景色が広がっています。

私の家族は花植えや自然が大好きです。私のおばあちゃんの家の大窓からは、ゴーヤやみょうが、トマトやナス、きゅうりやタ顔などが花を咲かせながら育つのが見えます。ゴーヤでできるグリーンカーテンのお陰で夏は涼しくエアコンは使いません。調べてみると、日差しの熱エネルギーを約八十％カットできるそうです。家庭菜園を楽しみながら、そして緑やカラフルな色とりどりの花にいやされながら夏の節電もできて一石二鳥。

私の地域から少し車で移動すると、そこには木々の伐採や開拓で自然が破壊された地域もあります。マンションやショッピングセンターの建築で、私たちの生活や暮らしは豊かになります。しかし、それは長くは続かず一時的なものかと考えました。大げさなことに感じるかもしれませんが、このまま木々や花や緑が失われたら、いつかは自然災害から守れなくなり、大きな被害が起きてしまうのではないかと思います。建設されたビルやショッピングセンターなどに花を植えたらいいのではないかと考える人もいるかもしれませんが、ただ目を楽しませることにしかならず、根本的な自然環境を守ることはなりません。人間の生活における利便性を考えるだけではなく、自然の美しさは心を感じさせ、人々の源泉となり、感受性を豊かにする上でも大切なことだと思います。

ただ花や自然が好き、環境をどうにかしたいと漠然と思っている私に、自然を守るためにできることがあるだろうかと考えました。

私は木を生み出すことも、ビルの建設を止めることもできません。しかし、こうして私の思いや経験を作文にしたり、緑のカーテンを作ったりすること、また、地域の花植え、

自然を守るゴミ拾い、緑を守る活動などは私にもできるはずです。決して大きな力ではないけれど、誰でもいつでも始められる活動であり、未来に花や緑を残すためにも小さなことから始めていこうと思います。みんなに緑の美しさや大切さ、役割を知ってほしい。

私は私の考えや努力、行動が未来の美しい自然を残すことにつながっていることを信じて活動していこうと思います。まずは、この作文でこの思いを伝えたい。

「花の道を守っていきます。」